

小松電機産業

韓国に現地法人設立

アジア圏での販売力強化図る

シートシャッター製の販売力強化を図る。90年に韓国の現地パートナーと提携して、造大手の小松電機産業。同社は1973年に（島根県松江市、〒690-3161・2490）は、韓国・ソウル市に100%出資子会社の「コマツコリア」を設立し、初の海外生産拠点となる工場を建設した。門番ブランドの新製品製造を進めるとともに、アジア圏で

シートシャッターは、食品や医薬品製造の現場などで用いられ、人が出入りする工場入口などに設置すれば、ほこりや虫の侵入を防止するほか空調効果を格段に高めるといわれる。近年、韓国をはじめ、アジアの新興国でも衛生管理や品質管理の意識が高まりを見せ、シートシャッターは、2010年5月にソウル支社を開設した。また、同社のグローバル戦略の方針として、小松昭夫社長は、2006年12月に「ガレージファクトリー構想」を発表。「ユーザーに近い場所での生産、アフターサービスの充実、200平方メートル程度の用地」での世界多拠点生産の計画を進めてきた。門番ブランドの新製品開発に伴い、同社は韓国をガレージファクトリー構想の第一号と位置付け、2011年5



新たに建設した韓国工場（写真中央が小松昭夫社長）

011年5月、従来のソウル支社を現地本社とした。さらに、初の海外生産拠点である工場を建設し、韓国国内での需要に対応するとともに、今後は韓国からの輸出も視野にアジア圏での販売展開に力を注ぐ構えだ。